

No. 13-100 JSME ジュニア会友向け 機械の日企画

「親子見学会 ～日本エネルギー産業の発展、現在、そして未来へ～」を終えて  
部門企画委員会 高橋志郎（日立製作所）、松本亮介（関西大学）、鶴田敏和（日本原電）、木戸口和浩（電力中央研究所）

将来を担うジュニア会友に、機械や工学、エネルギーに興味を持っていただくことを目的として、8月2日に夏休み親子見学会を開催しました。本会は毎年開催しており、今年で10回目の開催となりました。今年、「エネルギー」をキーワードに、日立シビックセンター科学館、日立製作所の日立事業所及び日立研究所を見学しました。

日立シビックセンター科学館では、館内の施設をご自由にご体験いただくとともに、プラネタリウムやサイエンスショーの催しに参加していただきました。科学館では、たくさんのわくわく、どきどきする体験ができました。プラネタリウムでは、きれいな星空をながめながら、最新の宇宙の情報や星座に関して学ぶことができました。

日立製作所では、過去におけるエネルギー産業の発展から、発電用タービンの製作、将来に向けての研究開発に関して見学しました。日立製作所発祥の創業小屋、日立製作所の発展や戦時中の記録が残る小平記念館を見学するとともに、大規模で迫力のある蒸気タービン、ガスタービンの製造現場を見学しました。日本機械学会「機械遺産」に登録されている5馬力三相誘導電動機と高尾直三郎による設計図面も見ることができました。また、日立研究所の材料実験室では、3Dスキャナ、高速度カメラ、サーモグラフィ、マイクロスコープを用いた高度計測技術を体験するとともに、金属材料の引張試験を見学しました。子供たちからは、見学当初は「本当にタービンが見られるのかなあ？」、計測体験後には「ああ、楽しかった！」等の生きた言葉が聞かれ、本見学会の意義を感じました。機械、電気を大好きな子供が多く、見学時には、子供たちから非常にたくさんの素朴な質問がありました。実験で破断した材料をいつまでも興味深く観察し、日立研究所の研究員に質問を続ける子供たちの姿は感慨深いものがありました。

参加していただいた子供たちには、見学会の感想などの自由研究作品（感想文、絵日記、工作など）の応募をお願いし、提出していただいた全員に記念品を、また優秀作品には賞状と副賞を贈呈します。優秀作品については、日本機械学会ジュニア会友ホームページなどで紹介する予定です。ぜひご覧ください。

最後に、タービン製造現場や、研究所の実験室見学は、小中学生を対象とした例の無い、初めての見学会でありましたが、日立シビックセンター、日立製作所、日立事業所及び日立研究所の多くの方の協力により、無事安全に、見学会を成功することができ、感謝申し上げます。

